

第148回例会修正
 会員数 34名
 出席者 24名
 メイクアップ 1名
 修正出席者数 25名
 修正出席率 73.53%



突然、ロータリー日本財団に遺贈による冠名基金を作った経緯や手続きの方法、その過程で知り得た国際ロータリー財団の活動や基金の種類等について説明するとともに、昨年11月13日に横浜インターコンチネンタルホテルで開かれたメジャードナー顕彰午餐会 (AKS 会員、メジャードナー、遺贈友の会) の参加報告を行った。

遺贈による冠名基金の創設の動機は、決して高邁な理想に駆られてではなかった。新型コロナウイルスに罹患したことをきっかけに、信託銀行の遺言信託を利用して、寄付を明記した公正証書遺言状を作成しようとしたところ、銀行側から30年先も存在する寄付先の指定を助言されたことによる。

ロータリー日本財団を選んだ理由は、手続きがとても簡単で、25,000 ドル以上で冠名基金 (恒久基金) が設立でき、寄付先の重点分野も6項目の中から選択可能、本人以外の家族等の名まえも一緒に冠することができるという点だった。また、自分なりに情報収集を試みたところ、国際ロータリー財団の財務の透明性が高いことも決め手になった。

勢井由美子会員による遺贈のご紹介に始まり、財団事務局との数度のメールによるやり取りと、池ノ上パストガバナーの温かなご助言と地区委員会へのご仲介により、わずか一か月程度で手続きを完了することができた。

手続きを進める過程では、財団日本事務局の清水優季室長に大変お世話になり、その的確で心のこもったメールを拝読する度にロータリー精神に触れる思いであったし、本卓話向けに編集、印刷の上お送りくださった資料を通して、寄付と財団の活動の概略を把握することができた。

先のメジャードナー午餐会では、2730 地区のリーダーの方々と食卓を囲み様々なお話を伺えたことも収穫だったが、終了後に東京江戸川の嶋村パストガバナーより、ロータリー流の国際貢献の実際について、モンゴルの学校支援を例にお教えいただいた内容には、目が開かれる思いだった。

関わってくださった皆様に心から感謝申し上げたい。今後は基金を作ったことで満足せず、自分に可能な形で国際貢献活動にも参加できればと考えている